
岡崎市住生活ワークショップ

第 3 回 開催結果

開催日 平成 21 年 7 月 21 日 (火)
時 間 午後 1 : 30 ~ 4 : 00
場 所 岡崎市役所 東庁舎 701 会議室

次第

- 1．開会
- 2．あいさつ
- 3．第1・2回ワークショップのふりかえり
- 4．住まい・まちづくりの方向性と施策について
- 5．グループ検討
- 6．休憩
- 7．各グループ発表
- 8．意見交換
- 9．閉会

まちなか居住グループ

ワークショップの検討成果

まちなか居住グループ

☑ キャッチフレーズ おせかいやきが育てるアチタウンあかぎ

アチタウン
高齢者、空家問題
自分たちの身の回りで生活できる町を作る!!

どちら方向に行けば何かあるかわからない。バス行先も分からない

既存の商店街を有効活用して町づくりを進める

高齢者宅への買い物配達サービス 御用聴

日夏の買い物は地域内での商店で生活し、総合病院や商業施設は核に1つ大きく作る

☑ まちなか居住の課題

- ① 高齢者がいきいき暮らせる居住支援が充実し住みやす
- ② 空家・空地を活用したにぎわいのある住みやす
- ③ 若者から高齢者まで多様なニーズに対応した住みやす
- ④ たすけあいを育てる仕組みづくり

☆ サポーター制度の創設 (お宅訪問)
最初のきっかけは行政に協力してもらう
 動くのは市民、きっかけ作り、最初の集まる場所は行政協力、民生委員のもとにサポーターが行く、動くイメージ

☆ まちなかで寄り合い処の開設と市民利用

☆ 空き家情報を市民から寄せる制度
空き家の情報を知りたい
 空き家がどこにあるかの情報を市民から寄せる!

☆ まちなかに公的な住宅を供給する = 空き地等も地権者が活用 協力する

☆ 木造密集住宅地での共同建て替えの推進
空き家と居住性向上、防災対策、工務店協力など

☆ シェアハウス
両時ではムリか? 今後は

追加課題

- 宣伝のしかた工夫、情報発信、地域の高齢者が欲しい情報を明らかにしていく、地域を把握する、地域の商店のお客さん同志で情報を共有する、応援する温かい声、薄くなった、勉強会必要
- 閉店舗に高齢者のみ居住している問題ある
- 産直市場が地域や街なかにあると良い
- 観光案内として地図付の街の良い所紹介ガイド
- 農協と協働でアチタウン毎に産直農産物販売する
- 産直市場が地域や街なかにあると良い
- 観光案内として地図付の街の良い所紹介ガイド
- 農協と協働でアチタウン毎に産直農産物販売する
- アチ病院
単科医でない、各種専門が一堂に集まる施設

キャッチフレーズ

おせっかいやきが育てるプチタウンおかざき

プチタウン 高齢者、空き家問題、自分たちの身の回りで生活できる町を作る！！
どっち方向に行けば何があるかわからない。バス行き先もわからない。
既存の商店街を有効活用して町づくりを進める。
高齢者宅への買い物配達サービス、御用聞き。
日頃の買い物は地域内の商店街で生活し、総合病院や商業施設は核に1つ大きく作る。

まちなか居住の課題

高齢者がいきいき暮らせる居住支援が充実した住まいづくり
空家、空地を利用したにぎわいのある住まい まちづくり
若者から高齢者まで多様なニーズに対応した住まいづくり
たすけあい育てる仕組みづくり

(追加課題)

宣伝の仕方工夫、情報発信

地域の高齢者が欲しい情報を明らかにしていく。 地域で把握する 地域のお店のお客さん同志
で情報を共有する。

応援する温かい心、薄くなった 勉強会必要

閉店舗に高齢者のみ居住している問題ある

主な解決策

サポーター制度の創設 (お宅訪問)、最初のきっかけは行政に協力をもらう。
動くのは市民、きっかけづくり、初めの集まる場は行政協力欲しい。
民生委員のもとにサポーターが付いて動くイメージ
まちかど寄り合い処の開設と市民利用
空き家情報を市民から寄せる制度 (集めた空き家情報を活用する)
まちなかに公的な住宅を供給する = 空き地等を地権者が活用 協力する。
木造密集住宅地でのころがし型建て替えコーディネート
共同建て替えの推進、空き家と居住住宅の共同建替え (工務店協力など)
空き家がどこにあるかの情報を市民から寄せる。
シェアハウス 岡崎では今すぐはムリか！？

(追加提案)

産直市場が地域や街なかにあると良い。

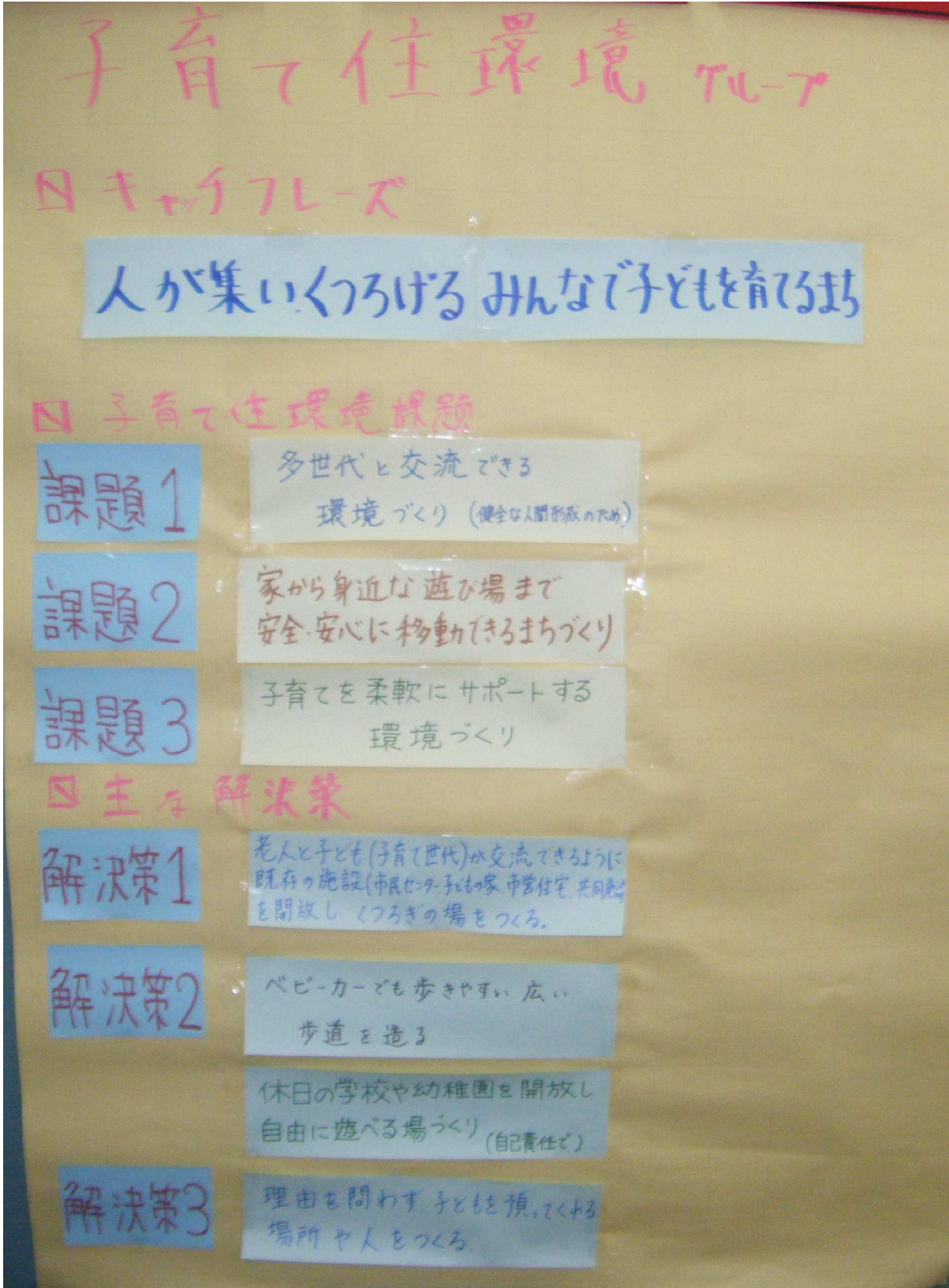
観光案内として地図付の街の良い所紹介ガイド

農協と協働でプチタウン毎に産直農産物販売する。

プチ病院 単科医でない各種専門が一箇所に集まった施設

子育て住環境グループ

ワークショップの検討成果



キャッチフレーズ

人が集い、くつろげるみんなで子どもを育てるまち

まちなか居住の課題

- 課題1 多世代と交流できる環境づくり(健全な人間形成のため)
- 課題2 家から身近な遊び場まで安全・安心に移動できるまちづくり
- 課題3 子育てを柔軟にサポートする環境づくり(追加課題)

主な解決策

<課題 1>

老人と子ども(子育て世代)が交流できるように既存の施設(市民センター、子どもの家、市営住宅、共同施設)を開放し、くつろぎの場をつくる。

<課題 2>

ベビーカーでも歩きやすい広い歩道をつくる。

<課題 3>

休日の学校や幼稚園を開放し、自由に遊べる場づくり(自己責任で)理由を問わず、子どもを預かってくれる場所や人をつくる。

額田の定住グループ

ワークショップの検討成果



キャッチフレーズ

<ターゲット>

新家
子供(次世代)
Uターン
定年世代

<額田の売り>

ほっとできる
豊かな自然
空気がいい

<戦略>

特定の人(自然が好き、農業が好き)に住みやすいまち
住み替えしやすい、住み継がれるまち

まちなか居住の課題

課題1 多様な住宅供給

課題2 潤いのある環境(山、水など)の保全(づくり)

主な解決策

<課題1>

地権者分(供給する)、土地を手放す(貸す)
宅地を供給する、市営住宅の供給

空家を貸す
賃貸住宅を供給する、住宅の改修補助(耐震、水回り、リフォーム)

<課題2>

ICによる環境対策